



ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、仲良く助け合っ
たの せいかつ 楽しく生活していくことを願って、活動を
つづ 続けています。

くろするる〜ど

がっこう だいごう
2023/10月号 第285号

かいほうし
会報誌

★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★



★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

げっかん がつ
〜サロン月間カレンダー10月〜

ふちゅう さんか
『『キテキテ府中マルシェ』に参加』

きかくぶかいぶかいちょう かんど くにお
企画部会部会長 漢人 邦夫

日本語学習会

日時：10月2日(月)～10月30日(月)
月(午前・午後) 水(午後) 金(午後・夜)

場所：フチュール会議室・学習室ほか

*10月の土曜学習会は以下の2回です。

日時：10月7日・21日(土) 午後2時～4時

場所：7日・第1会議室 21日・調理講習室

府中市と地元商工会が担っている「まちづくり府中」キャンペーンの一環として、9月10日(日)にけやき並木通りで、第9回目の「キテキテ府中マルシェ」が開催されました。今回のテーマが「府中と世界がつながる日」ということで、「府中国際交流サロン」にもステージ出演とブース参加協力の依頼があり、サロンのPRのよい機会になるということに参加することになりました。

実行委員会

日時：10月11日(水) 午前10時～昼12時

場所：フチュール学習室

日本語教授法研修会

日時：10月5・12・19・26日(木) 午後2時～4時

音声・在留資格講習は「みんなの広場」を参照

場所：フチュール第1会議室・学習室・学研室

文化交流部会生け花教室

日時：10月13日(金) 午前10時～昼12時

場所：フチュール工芸室

参加費：500円(15名まで)

フチュール休館日

10月10日(火)・28日(土)

*以上の件について、詳しいことはサロン事務局で聞いてください。



サロンの展示ブース

ステージの出し物については、文化交流部会と相談し、7月の「サロン夏の交流会」で評判がよかった各国の民族衣装の紹介をすることになりました。当初は、夏休み中ということもあり、学習者の方々と連絡が取れるかと気を揉みましたが、文化交流部会のスタッフのご尽力で、7月に参加してくださった方のほとんどからOKのご返事をいただきました。

当日は、ステージの出番が最初(午前11時)ということで、集客が心配されましたが、サロン関係も含めたくさんの市民がステージ前に集まってくれました。会長の挨拶に続き、10ヶ国(タイ、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、インド、マレーシア、シンガポール、ジンバブエ、フィリピン、東トルキ

せ かい ぶん か 世界の文化

へいわ かんらん 「平和のつどいを観覧してきました」

きんようごご ことばやし よしひろ
金曜午後ボランティア 小林 義弘

がつ にち ど、バルトホールで開催された「平和のつどい」を観覧してきました。

ゲストとして4組(5人)の外国人の方が参加されました。そのうちの2組(2人)が、サロンで日本語を学んでいるヌルビヤ・マイマイティさん(東トルキスタン)と、クレモン・オータヴォアヌさん(フランス)でした。このイベントは、広報で知っていたのですが、2人の応援の気持ちもあり観覧してきました。

まず、前半は4組の外国人から自己紹介として3枚の写真(平和を感じる)の提示があり、写真についての説明とそれぞれの方の平和の意味、考えのお話がありました。それぞれの立場により平和のとらえ方が異なることが再認識させられました。

後半は、4組の方々が別々のグループに分かれて、観覧者は、好きなグループへ移動し、より詳細なお話を聞きました。ここで各グループのリーダー役は、観覧者の中から立候補した子どもが行い、最後の各グループの話のまとめを発表しました。また、外国の方の感想も述べられ、子どもと大人と一緒に話をするのは、珍しいことでとても良いイベントだとの感想がありました。リーダー役の子どもたちは、勇気を持って立候補したそうで、とても立派だと思いました。

私の印象に残ったことは、平和という国レベルから人レベルまで様々ですが、個人レベルで出来ることは、相手をリスペクトするとよい(争いが起きない)との話があり、なるほどと思いました。

先日『怪物』という映画を見ましたが、人それぞれの心に怪物が住んでいる。その怪物を開放した時に平和が崩れるのかな?などと漠然と考えたりしましたが、日本に住んでいると平和について普段考えることがないので、良い機会だったと思います。環境的な平和もありますが、心の中の平和も大切だとも思いました。

スタン)11名の学習者のみなさんが、それぞれ自国の民族衣装をまとい、その由来や国の文化を語ってくれました。交流会のときよりも晴れやかに着飾った皆さん!素晴らしい!そして、緊張いっぱいのステージでのご挨拶。原稿を持つ手が震えていて、声も上ずっている人もいました。タイやジンバブエの方は踊りまでみせてくれて、たいへんな盛り上がりでした。皆さん、暑い中の熱演。たくさんの府中市民の方々に、多様な文化が世界各国にあること、そしてサロンのことを知ってもらえたと思います。「良い体験ができました、日本での思い出が増えました」との参加者からの感想もいただきました。そうなんです、皆さん、自分の国と衣装・文化に誇りを持っているのですね!こういう機会をもっと作っていききたいですね。



民族衣装を着た学習者とボランティアのみなさん

「作文コンクールの原稿を紹介します」

だいにじゅうろっかい せかい にほんごがくしゅうしゃ けんきゅうしゃ にほんご
第二十六回、世界の日本語学習者・研究者『日本語
作文コンクール』に応募した原稿を随時、紹介します。

「日本語と私」

たかやま すみこ きこくしじょ
高山 澄子 (帰国子女)

日本語との出会いは思い出せば、私は5才の頃、母が日本の童謡「すずめの学校」を覚えてくれたことです。その時から、私は美しい日本語に憧れて好きになりました。日本語は、私にとって第二母国語だと思っています。

母は14才の頃(1945年)東京都江東区大島町に住んでいたそうです。ある日アメリカの飛行機の無差別爆撃で母の家は一瞬に廃墟となりました。そのため祖父、祖母や母とおじ、おばは、万国赤十字社の援助のもとで、船に乗って中国の上海へ避難しました。

1985年、中日国交正常化後、母は40年ぶりに日本に帰国しました。当時のことを思えば、母は涙が满面にあふれて胸が高鳴っていたそうです。

1991年4月に私は主人と息子と一緒に日本に参りました。まず、私は横浜市の日本語学校で勉強し、二年後に卒業しました。その後、川崎市国際交流センターの高津区市民館、宮前区市民館等の日本語教室でボランティアの先生のご指導のもとで、長い間勉強しました。1994年11月に私は幸いなことにかわさき市第一回外国人による日本語スピーチコンテスト大会に参加し、優秀賞を獲得しました。なぜこんな一生懸命に日本語を勉強するかと言いますと、実は日本にきたばかりの小学校五年生の息子のため一緒に山を登るように日本語の勉強を頑張ろうと思っています。

それから私は原付免許と自動車免許を次々に取りました。

1998年私と家族は日本の国籍を順調に取得しました。

2000年私は東京都の女子高校に就職できました。

そして、2003年に私は日本語検定試験一級に合格して、日本語漢字検定試験二級も合格しました。

以上の述べた、いくらかの学習成果を獲りましたが、日本語教室の先生達の熱心な教えとは切り離せないと思っています。今でも心が温かくて感謝の気持ちでいっぱいです。

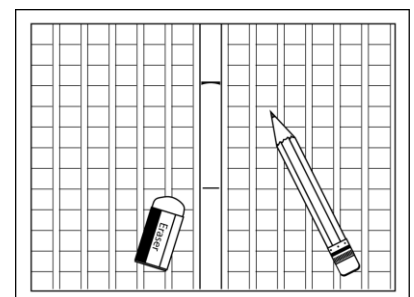
2009年5月に家の事情のため、私と主人は中国上海へ行き、あっという間に14年間すぎました。

去年10月の下旬、私と主人は再度日本に戻ってきました。けれども、時間が経つにつれて、さらに年齢のわけで自分の日本語がどんどん後退してしまうので、いらいらしておりました。

おかげさまで今年1月27日に府中国際交流サロンの日本語学習会に参加する機会をいただきました。それで再び日本語の勉強ができて、私はとても嬉しいです。

日本語学習会に参加した2ヶ月の間、ボランティアの先生たちは日本語学習支援を通してとても親切にいろいろな知識を教えてください、私と他の学習者は一緒に楽しく勉強しております。心より感謝申し上げます。

これから日常生活のため、家族との会話のため、ひとひとのふれ合いのため、もっと正しい日本語を話せるように勉強を頑張っていきます。これからも皆さん、よろしくお願いたします。



皆さんよろしく◇学習者紹介

ヴァンベ アデレイデ

VAMBE ADELAIDEさん(ジンバブエ)



「日本での生活楽しんでます」

今年の5月からサロンで勉強している、ニックネーム「アディ」さんは、2022年3月ジンバブエの首都ハラレから来ました。

隣国南アフリカのNELSON MANDELA UNIVERSITYで学び、修士課程ではディベロップメント スタディ ソーシャル エコノミック イシューを勉強し、卒業後、南アフリカでビジネス リレーション マネージャーとして働いていました。

日本から来て、音楽の先生をしていた方に刺激され、自分も日本に行って英語の先生をしてみようと思ひ、来日しました。

現在は月曜日に世田谷の日本大学で教え、9月からは、墨田区にある大学で火曜、金曜に教えています。その他、オンラインでも英語を教えています。

趣味は、テニスとお料理です。いろいろなスープを作って楽しんでいます。

日本の食べ物では、お寿司とすき焼きが好きなのと、めずらしく納豆が好きだとのこと。

ご自分の性格は、フレンドリーで、いつも元気で明るいとおっしゃっているとおり、エネルギーに溢れたかたです。

日本語をマスターして、バイリンガルの先生として活躍したくて、サロンで学んでいます。

サロンは親切でフレンドリーなので、とても助かっているとのこと。 (取材・文構成 堤 林)

こんな教え方しています

～ 13 ～

「学習者が何を求めているかを理解する」

げつようごぜん

月曜午前ボランティア 杉 奈美

堂々と言えるようには、ほど遠い試行錯誤中の新米です。私のモットーは、学習者が、少しでも充実した楽しい時間だったと思って帰ってもらうことです。しかし、これは非常に難しいことだと毎回反省しています。それには教える側の気持ちだけでなく、学習者が何を求めているかをコミュニケーションをとり理解することが大切だと感じています。

*初めて会った時には、自己紹介のあと

○日本語を学ぶ目的は何か？またその必要性

○現状の日本語学習レベルはどのくらいか？

○学習の目標やニーズは何か？

を確認して、再度お互いの趣味等を話してコミュニケーションを図ります。そして使う教材や勉強方法等を話し決めていきます。

*「母語・英語を話せて日本語は全く初めてでローマ字読みは、できる方」(私は英語を話せません。)

こんな学習者には、

○日本語・ローマ字・英語で説明された教本使用

○ひらがな・単語の絵等ロールカードで繰り返し音読

○広告(家電製品やスーパー)で名前と金額の読み方学習{生活で買物しているため習得が早いと感じました。}

○媒介語がないため、身振り、ノートに絵を描く、写真、スマホ翻訳アプリ(英語⇄日本語)等使用

*「9年程前日し、サロンに通い日本語能力試験N2取得後、出産、育児のため休学し再度学習にきた方」

こんな日本語が上手な方には、雑談含め色々テーマを考え日本語会話をし、ある程度時間が経過したあと、学習者の勉強への向上心が見受けられたのを再確認し、復習を兼ねて学習の前半はN2

どっかい こうはん ちょうかい こんご がくしゅうほう
読解、後半は聴解をしています。今後も学習法を
かくにん すす すす
確認しながら進めていきたいとおもいます。

いじょう まいかいかなら せけんばなし
以上のように毎回必ず世間話をしてコミュニケーションをとっています。常に状況の確認をしていき、それに応じて学習方法も柔軟に対応して功を奏する、お手伝いができればと思っています。



しん 新ボラさん こんにちは

ゆういぎ たの まな きょうじゅほうけんしゅう 「有意義で、楽しく学べた教授法研修」

きんようごご もりた まさほる
金曜午後ボランティア 森田 正治

はじめまして。新ボランティアの森田正治と申します。府中市に暮らして早40年になります。4年前まで中学校、高等学校で国語教師をしていました。科目は現代文、古文、漢文。中学1年生から高校3年生まで教えていました。

さてこの度、国際交流サロンで日本語指導をしていらっしゃる方とご縁があって、そのご紹介で2023年度日本語教授法研修Ⅰを受講しました。以前から外国語として教える日本語に興味がありましたので、とても有意義で、またとても楽しく学ぶことができました。

ところで、日本語に限らず言葉は時代とともに変化するものですが、とりわけ近頃の話言葉は変化が著しいと感じています。「起きれる」「食べれる」、「1000円から頂戴します」「こちらハンバーグになります」といった言い方は既に広く使われているようですが、どうにも馴染めません。

そんな私が外国の方に「日本語」を教える。「日本語」って？さてさて、これはたいそう骨の折れる仕事になりそうです。やる気と根気げんきと元気げんきは勿論のこと、それ以上に工夫と努力が必要だと思っています。どうぞよろしくお願いいいたします。

ぐうぜん たまもの かんしゃ 「偶然の賜物に感謝です」

きんようごご やました かずみ
金曜午後ボランティア 山下 和美

にほんごきょうじゅほうけんしゅうかい きんかほんとうぐうぜん
日本語教授法研修会に参加したのは本当に偶然でした。サロンも募集も場所も全く知りませんでした。ある日、スーパー「ライフ」での買い物ついでに初めて4階にある「フチュール」にいきました。

というのも、定年まで進学校で化学を、その後は数学を教えていたので、その経験を役立てられたら、と聞くつもりだったのです。

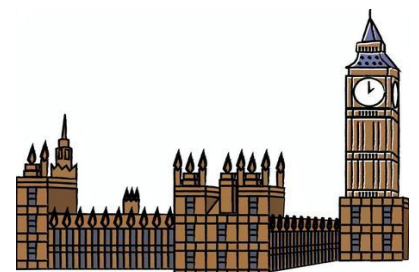
うけつけ りゆう い おおく ふちゅうこくさいこうりゅう
受付で理由を言うと、奥の「府中国際交流サロン」のカウンターに示されました。そこではすぐ申し込み用紙を渡され、「日本語教授法研修の応募枠は、あと1、2名です。」と言われました。ヒトはあと1、2名に弱いものですね。躊躇しながらも決めてしまいました。

きろ ふあん わか こうこうくう
帰路はさすがに不安になりました。若い頃航空会社に勤め、英国に少し居たり、一人で旅行したり、異文化に興味があるからと、思いを整理しました。

にほんごきょうじゅほうけんしゅうかい おのおの けいけん ひとがらの
日本語教授法研修会は、各々の経験や人柄で伸びの伸びと和気あいあいと進みました。そして新たに学ぶ楽しさを知る貴重な時間となりました。本当に偶然の賜物です。流れには乗ってみるものです。

みなさま ていねい おうたい おついで あたま
またサロンの皆様の丁寧な対応と熱意には頭が下がります。

にほんで くらす 外国の方達が 少しでも居心地良く 過ごせるよう、温かい気持ちで やってゆきたい と思います。どうぞよろしくお願いいいたします。



もど
「サロンに戻ってきました、よろしく！」

げつようごぜん すずき つねひさ
月曜午前ボランティア 鈴木 恒久

すずき もう
鈴木と申します。サロンへの出戻りですが、よろしくお願ひします。

しょうせい しゅみ りょう かいどうある お たた じてんしゃ
小生の趣味は旅行、街道歩き、折り畳み自転車を
つか りんこう がつしやうおよ ろうどく かつどう
使つての輪行、そして合唱及び朗読のサークル活動
およ ばいくえん しょうがっこう 読み聞かせと児童の放課後
かつどうしえんなど
活動支援等です。

じつ しょうせい ねん にほんごきょうしやうせいこう じかん
実は小生、2005年に日本語教師養成校の420時間
じゅこう しょうせい
コースを受講いたしました。その理由は海外でロン
グステイをするには現地の人との交流の手段として
にほんごしどう さいてき
日本語指導が最適と思えたからです。

そして受講を終えたのちマレーシアで足掛け3
ねんかんたいざい げんち ちゅうがくせい いし ホテル従業員
年間滞在し、現地の中学生、医師、ホテル従業員、
のうじやうけいせいしやほか にほんご おこな おお
農場経営者他へ日本語ボランティアを行い大いに
こうりゅう たの けいけん
交流を楽しんだ経験があります。

その後、こちらのサロンにも約3年間参加させて
いただいた経験がありますが、その後は趣味に忙殺
されて中断してしまいました。今回、再開しようと
けつたい げんち ちゅうがくせい にほんじん にほん
決意したのは、ウクライナ人の中学生で日本人、日本
ぶんか だいすき おんな の子が、日本語ができるというこ
とで様々な活動を行い、そのうちに日本人の支援を
うけて とうきやう いじやう
受けて東京への移住がかなったということを知り、
自分でも多少とも外国の方への日本での生活の支援
ができれば良いかなと考えたからです。更にサロン
が今年度に小生宅と至近なところに移転してきたこと
も、もう一つの理由です。

ちりよくたいりよくなど れっか なか おし おお
知力体力等の劣化中、教えるより教わること
のほうが多いかと思ひますが。学習者の方と楽しく
こうりゅう おお おも
交流をさせていただければ幸いです。



もじ か かつ
「ペルシャ文字の書き方について」

きんようごご いわむら あきお
金曜午後ボランティア 岩村 昭夫

『くろする〜ど』6月号「こんな教え方していま
す」で次のような文章を載せたところ、ボランティ
アの方から間違いではないか、とご指摘を受けまし
た。

文章は「文字指導では、筆順を覚えられるように
アプリの『新・筆順辞典』を使いました。ペルシャ
文字の書き方は文字を下から上に書くので、形がと
りにくいということもあります。自習効率を上げる
ためにも初期は筆順をしっかりと覚えてもらったほ
うがよいと思っています。」というもの。

ご指摘の内容は「ペルシャ文字は、下から上、で
はなく、右から左、ではないか」というものでした。

確かにペルシャ文字は右から書き始めますよね。
そのことは知っていたのですが、どうしてこのよう
な表現をしたのかというと…。

実際に教えたイランのマハディさんや、同じペル
シャ語系のアフガニスタンの学習者も同じようにひ
らがな・カタカナを下から書いたりします。そのた
め彼らの文字も一字一字（「文」ではなく）は下から
書くのだろう、と思ってしまったというわけ
です。

その後、アフガニスタンの方に上記の経緯を話し
て、ペルシャ文字の書き方を伺ったところ、日本語
と違ってペルシャ文字はつなげて書く（英語の
筆記体のような書き方）ので、下から上に書く時
もあり（基本は上から）、その影響で下から上
に書いてしまうこともあるかもしれない、とおっしや
っていました。（しつこいですが書き始めは右から
です）

蛇足ですが、数字も4や9など下から書いていま
す。日本の学校では1年生で数字の書き方を指導し
ていますが、これは特に指導しなくてもいいのかな、
と思ひています。

ご指摘のおかげで、いろいろ勉強することができ
ました。ありがとうございます。（下線は筆者）

『みずくさい』は本当に臭い？

きんようよる わだ やすひろ
金曜夜ボランティア 和田 泰弘

6月21日付の朝日新聞デジタルに、インドネシアを公式訪問した天皇夫妻が、6月20日、首都ジャカルタ東部にあるダルマ・プルサダ大学を訪れ、そこで日本語を学ぶインドネシア人学生10人と歓談をしたという記事が出ていました。

「日本にはどういうことで興味を持ったんですか？」「どういう勉強をしていますか？難しいですか？」という問いかけに、慣用句をテーマに卒業論文を書いているという4年生の男子学生が『水くさい』という言葉は、私たち外国人には『水がくさい』と感じます」と答えたとのことでした。

日本語の慣用句(コロケーション)については以前にもこの欄で取り上げましたが、別々の意味を持つことばが一つになって新しい意味が生じることばです。初級を終え、語彙、基本文型も身について表現力が増しつつある中・上級者の前に立ち上がる壁の一つでもあります。

「水臭い」は、親しい間柄なのに心を打ち明けないうことを指しますが、初めてこのことばに出会ったら、このインドネシアの大学生のように文字どおりの解釈をするしかないでしょうね。「水」にまつわる慣用句だけでも、ほかに「水入らず」「水に流す」「水があわない」「水を差す」「水と油」等々があります。慣用句は、ある程度推測できるケースもありますが、やはりたくさんの用例に触れ、意味を掴むしかありません。身体に関する、「頭が切れる」「手を焼く」「手を切る」「目から鱗が落ちる」「目が利く」「地獄耳」「鼻で笑う」「鼻白む」「腹が立つ」「臍が(で)茶を沸かす」「背に腹は代えられない」「心臓に毛が生える」「首が回らない」「腕が鳴る」等々は、それこそ学習者には、「お手上げ」で「目を剥く」「耳を疑う」慣用句でしょう。慣用句を豊富に身につければ、日本語の「腕が上がる」！

「柏崎先生よりご著書をいただきました」

長年にわたり、日本語教授法研修の講師をご担当いただいた柏崎雅世先生より、『日本語複合動詞活用辞典』(研究社刊)をサロンに寄贈していただきました。監修者の姫野昌子先生が急逝された後、柏崎先生が編集を引き継がれ、長い歳月をかけてこの8月25日に刊行されました。

複合動詞は、「受け付ける」「使い切る」「思い出す」のように二つの、あるいは三つの動詞が結合することにより新たな意味と用法が生まれる動詞です。この辞典には、日本語学習者が特につまずきやすい3,547の複合動詞が取り上げられています。一昨年の12月には、研修部会の特別講座として、柏崎先生をお招きして複合動詞のお話をしていただきました。その際の資料が研修部会に保存してありますので、ご興味のある方はお問い合わせください。

この『日本語複合動詞活用辞典』を是非、日頃の日本語学習会に活用するとともに、ボランティアの皆さまのブラッシュアップにもつなげていただければと思います。

この誌面をお借りし、柏崎先生には厚くお礼を申し上げます。(研修部会一同)



「日本語学習発表会開催のお知らせ」

2019年（令和元年）3月に実施した後、コロナのために休止していた「日本語学習発表会」を4年ぶりに再開することになりました。下記の要領で開催し、発表者を募集しますので学習者のみなさんの応募をお待ちしています。

日時：12月9日（土）午後1時半～4時（予定）

場所：フチュール 第1・2会議室

募集人数：10～15名程度

発表テーマ：例えば「日本の面白いところ、不思議なところ」、「お国自慢」などなど、スピーチのテーマは自由です。

発表時間：4分以内

応募方法：サロン事務局にある応募用紙に必要なことを記入して、事務局に提出してください。

*詳しいことは事務局で聞いてください。

（サロン実行委員会）

「教授法研修会Ⅱ特別講習のお知らせ」

前年度に引き続き、今年度も「日本語教授法研修会Ⅱ」の特別講習として「音声講習会」と「在留資格講習会」を下記の要領で開催します。

■音声講習会

日時：10月14日（土）午後2時～4時

場所：フチュール学習室

講師：中村則子先生（早稲田大学講師）

■在留資格講習会

日時：10月21日（土）午後2時～4時

場所：フチュール学習室

講師：寺岡奈都子さん（行政書士）

*現ボランティアの方々も聴講できます。参加希望者は、事務局に備え付けの申し込み用紙に記入のこと。いずれも定員は40名まで。

*詳しいことは事務局で聞いてください。

（研修部会）

「市民芸術文化祭『いけばな展』に参加」

今年も10月27日（金）から「府中市民芸術文化祭」が開催されますが、その一環として恒例の「いけばな展」が下記の要領で開催されます。今年も府中国際交流サロンからは、6名の学習者と文化交流部会のボランティア1名が参加し、出展されます。みなさま、是非足をお運びください。

日時：10月27日（金）～29日（日）

午前10時～午後6時（最終日は5時まで）

場所：プラッツ・バルトホール

入場料：無料

*詳しいことは文化交流部会までお問合せください。
（編集部）

～編集後記～

今年の夏は世界的に異常といえるほどの高温の日が続き、東京では9月になっても連日33度以上の日が続いています。いつになったら秋らしくなるのか虫の音が恋しいこの頃です。昔から「暑さ寒さも彼岸まで」と言われているので、秋のお彼岸（今年の秋のお彼岸は9月20日～26日）が待ち遠しいです。

ハワイの大火事、モロッコの地震、リビアの洪水など世界中で災害が起きていますが、日本でも地震がどこでおきてもおかしくないような気がしています。

防災訓練と、非常時の持ち出し袋、非常食などの用意が大切です。

（堤林）

【創刊】 1997年11月

【編集】 編集長：和田泰弘

会報部会：堤林・和田・岩城・末田

【事務局】 電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

